



令和2年1月29日(金)
練馬区立開進第四小学校
校長 河崎 晃二

開四小だより

2月号

非認知能力

校長 河崎 晃二

今年は2月3日が「立春」です。例年ですと、この2月3日が節分で驚かれた方も多いのではないのでしょうか。これは、地球が太陽の周りを1周する日数に端数が出るからです。閏年で調整しますが、それでも少しずつ時間がずれるのでこのようなこととなります。ちなみに、2月3日が「立春」というのは124年ぶりのことだそうです。これにも驚きますね。1897年(明治30年)以来ということです。

*

さて、皆さんは、「非認知能力」という言葉を知っていますか。今、世界の教育界でこのキーワードが注目を集めているそうです。

これまでは、「認知的能力」に着目した教育方法が提唱されてきました。「認知的能力」とは、計算や識字、テストの点数など、測定しやすい能力のことです。「テストの点数が〇〇点上がった」というような、分かりやすい認知能力の向上はたしかに重要ですが、これまで、過度に評価されてきたきらいもあります。教育で大切なことは、認知能力を高めることだけではありません。簡単にテストで採点することはできない「非認知能力」の向上が、世界中で求められています。日本でも、2020年の教育改革を契機に、非認知能力を高める教育の重要性についての関心が高まっています。

非認知能力とは、目標を達成するための「勤勉さ」「情熱」「知的好奇心」「協調性」「自己肯定感」「表現力」など、数値では測定しにくい総合的な人間力を指しています。数値化することはできませんが、自分を成長させたり社会の中で活躍したりするために必要な力だと言えます。

それでは、非認知能力を高めるためにはどうしたらよいのでしょうか。それは、「目標をもつ力」と「目標に向かって努力する力」の二つの力です。

ここで言う目標とは「自分がこうなりたい」という理想像のことです。目標は誰かに与えられるものではなく、自分の内側から湧き上がってくるものです。「なりたい自分」に向って、自分で考え判断しながら生きていく中で、自分の思いをなんとか実現しようとする情熱へつながっていきます。実は、この情熱も、重要な非認知能力の一つなのです。

次の「目標に向かって努力する力」は、「やる気」や「忍耐力」のことです。やる気を引き出すためには「内的動機付け」がとても重要です。内的動機付けとは、「好き」や「やりたい」「成長したい」といった、内側から湧き起こる意欲のことです。子供がやりたがること、好きなことを尊重するようにしてください。「好きだからやりたい」「成長したい」という気持ちこそが、目標を達成するためにくじけない継続力や忍耐力を生みます。

実は、今年度から完全実施となった新学習指導要領でも、この「非認知能力」を育むことが求められています。このようなコロナ禍となりましたが、御家庭と地域、学校が協力して子供たちを育み、見守っていきましょう。